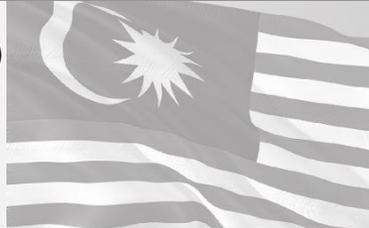
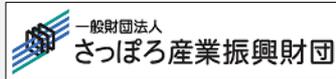


# 現地レポート



2021年 11月  
※無断転載を禁じます。



## 1.マレーシアでの日本産ベジタリアン・ヴィーガン食品の販売見込み

マレーシア人の日本への関心、好感度は高く、日本食、アニメをはじめとする様々な日本文化に対する人気が高くなっています。

日本への憧れは必然的に日本文化へも向かうことになり、結果的に日本食人気を醸成するに至っています。日本食はヘルシー、衛生的とみなされており、日本製品への信頼感を背景に、日本製のベジタリアン・ヴィーガン食品は一定の評価を得られると考えられています。

新型コロナウイルス「Covid-19」感染拡大に伴い、マレーシアでは2021年6月からは2度目の完全ロックダウンが発令されました。本記事執筆の10月時点では、ワクチン接種完了者を対象に移動制限は解除されているものの、多くのセクターがコロナにともなう景気悪化の影響を受けています。これに対して、消費は堅調でネット関連ビジネスなどむしろ恩恵を受けているセクターもあります。中・高所得者層を中心に余暇・レジャーに費やす予算が外食や高級食材、健康食品の購入に向かう傾向がみえます。



スーパーマーケットで販売されている植物原料製品

## 2.マレーシアでの民族ごとのベジタリアン事情

マレーシアは多民族国家であり（マレー系69%、中華系23%、インド系7%）、宗教も文化も異なります。

マレー系の多くはイスラム教徒であるため、アルコールや豚由来成分が入った食品はハラム（イスラムの戒律に則っていない）として摂取できません。またアルコールや豚由来成分が入っていても、ハラル（イスラムの戒律に則った）認証を取得していないと買ってもらえません。一方で、犠牲祭などで供物や与えられた食品を分け合う習慣があるため、個人的な理由を除いてベジタリアンやヴィーガンは非常に少ないと言えるでしょう。

中華系には仏教、キリスト教、道教を信仰する人々が多く、比率的には多くないものの、敬虔な仏教徒の中にベジタリアンがいます。このため、五葷（ごくん）（ネギ・ニンニク・ニラ・ラッキョウ・アサツキ（ワケギ））を使用しない中華系仏教徒向け製品を扱う市場も存在します。

この他、高所得者を中心に健康志向・環境問題などを理由にベジタリアンやヴィーガンを志向する層も存在します。

ベジタリアン比率が最も高いのがインド系です。本場インドの飲食店のように「ノンベジ」&「ベジタリアン」で食べる場所まで分けているところは少ないものの、ベジタリアンは「肉なし」メニューを摂っています。



中華系仏教徒向け製品



### 3.マレーシアでのベジタリアン・ヴィーガン専門店

レストラン検索サイト「HappyCow.net」によると、ベジタリアン・レストランは首都クアラルンプールだけで260カ所、ペナンは222カ所、ジョホールバルは131カ所となっています。ベジタリアンのための情報サイト「Veggie Vagabonds」によると、マレー、中華、インドの3民族の民族料理はすべてベジタリアン専門店でもなく「肉抜き」を注文できるとしています。

店舗販売を行なっている健康食品専門店チェーンとしては、オーガニック食品を扱い、レストランも併設しているBMSオーガニクスが挙げられます。クアラルンプール首都圏を中心に中・高所得者向けショッピングセンターに数店舗入居しています。

BMSを除くと大手は少なく、大部分は小規模専門店となっています。



クアラルンプール市内にある「Yolek Vegetarian & Organic Mart」



2019年オープンのマレーシア初のヴィーガン専門店「Vegan District」



健康食品専門店チェーン「BMSオーガニクス」

### 4. 日本企業の売り込み先として適切な業態

マレーシアにおけるヴィーガン食品の販路は、健康食品専門店や一部のドラッグストア、通販に限定されています。現時点でみる限り、ヴィーガン・メニューを用意している飲食店は少なく、**業務用より小売りの方が市場は大きい**と思われます。

**小売りの場合は、上記のベジタリアン&ヴィーガンを扱う専門店・健康食品店のほか、日本食品の取り扱いが多く知識が豊富な輸入業者に任せるのが常道**と考えられます。ヴィーガン製品でも、基本的には日本産食品になりますので、現在日本産食品を扱っているバイヤーがポテンシャルのある販売候補先となります。マレーシアですでに売られているヴィーガン製品とは違った、**差別化できるセールスポイント（原材料が100%北海道産など）を明確にしておくことが重要**と言えるでしょう。バイヤー紹介や商談アレンジ等は当アドバイザーへご相談ください。

【著者紹介】

ASIA INFONET (M) SDN. BHD.(<https://www.asiafonet.com/japanese-food/>)

日本産食品のマレーシアへの輸出を希望される企業様へ商談のアレンジ及びテストマーケティングといったマレーシアでの食品業界への商流構築のサポートを行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

【発行者】一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部 URL: <https://sec.or.jp/hanro-kakudai/international/adviser/malaysia/>

マレーシアへの食品販路拡大に関する支援をご希望の方は、上記HPで詳細をご確認の上、利用申込書をお送りください。

※この情報はアドバイザーの独自調査によるものです。当財団はこの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありませんのでご了承の上ご活用ください。